

算数担当が、算数を教えつつ、いろいろなことを考えてみました。

$\pi=3.141592653\dots$

No.11：自分の役割について考えてみた

令和7年6月6日
墨田区立柳島小学校
校長 近藤 幸弘
柳島小学校算数担当

「私はどうあるべきだろう…」と考えてみました。

4・5年生の算数では、私は主に算数の苦手な児童を担当しています。「彼らには個別指導を多くすれば、彼らはもっとできるようになる」と確信をもっています

前任校3年目（令和5年度）、私は4年生を担当していました。算数が極端に苦手という児童が数人いました。宿題をやらない・授業でも演習問題を「こっそり」やらない…ますます苦手になりやなくなる「負のサイクル」に陥っていました。

そこで私が考えたのは、「私の目の前でやらせる」ということでした…といっても罰を与えたり怒ったりするのでなく、「一緒にやろう」という、「ほんわか」とした感じです。

「Aさん、ここ間違っていたよ。こっち来て一緒にやろう…ここはこうして、…そうそう…（と言いながら他の子の分の丸付けを同時進行。Bさんの丸付けが終わり）Bさんおいしい！あとここだけ直そう。いらっしゃい…ここ直してね（Aさんに向けて）Aさんできた？そうそう。よく頑張ったね。おしまい。ドリル（※直接記入式）は先生に預けてね…（再びBさんに）できた？…正解！じゃあ終わりね…」（以後、Cさん、Dさんと続く）※文にするととてもせわしい感じがしますが、実際その通りでした。

他にも、計算ドリルを全員分集めて進捗と理解度を確認し、不十分なところがあれば「Eさん、計算ドリル出てないよ～一緒にやるよ～…Fさんもいい～？…（以下前述のようにせわしく進む）」とすき間時間に呼んでは目の前で…とやっていました。私の机に2～3人、近くの空いている机に2～3人…はたから見ると「？」という感じでした。

ここで取り上げたAさん、Bさん、Cさん…。みんなかなりできるようになりました。九九を覚えられず算数から逃げていたEさん（この子は2年間受け持った）も、かけ算・わり算のひっ算を正しく（しかも自分から）行うようになりました。

この時の私はどういう存在だったのかな…と考えてみました。忘れた・怠けたとしても、それをとかめるのではなく「できていないから一緒にやろう」と呼ぶ。そして「そうそう…ここはこうやって…」と助言し、「できたね！」と（ともに）喜ぶ…

これからも私は、こんな感じの「伴走者」でありたいなあ…と思いました。